



企業編

社会福祉法人
安岐の郷

安岐町下山口58番地

設立：平成7年12月
従業員：291名

創設者の高橋稔さんは、安岐町山口出身で総理府（現内閣府）の職員として活躍後、故郷に貢献したいと考え、当時安岐町には無かった老人ホームを設立することを決めました。そこから、地元の人達と社会福祉法人安岐の郷設立発起人会を結成し、平成7年12月に安岐の郷を設立しました。翌年の10月に、特別養護老人ホーム鈴鳴荘という施設名で利用者70名、スタッフ41名で事業を開始しました。平成15年、高橋稔理事長が体調を崩し、後継者として姪の高橋とし子さんが、副施設長として加わりました。とし子さんは、利用者の中でも特に、自力で食事を飲み込むことのできない方へのミキサー食の改善など、利用者が快適に過ごせるようにサービスの見直しに取り組みました。続いて、職員の職場環境の改善に取り組み、平成17年7月に社員食堂を開始し、平



第一次産業編

株式会社
日出電機
エコファーム国東

国東町安国寺2753番地

設立：平成27年2月
従業員：20名

日出町にある株式会社日出電機は、日出町で電気・水道工事の施工を行う会社でしたが、約15年前に太陽光パネルの将来性に目を付け、県内企業の中でも最初に太陽光パネルを取り扱うようになりまし。その後、太陽光パネルが飛躍的に普及していったことに伴い事業を拡大していきま。渡邊順一会長は、太陽光パネル事業がひと段落し、新規事業を模索していたところ、平成26年に国東市から農業団地への進出の話がありました。現地視察をして、株式会社日出電機エコファーム国東を平成27年2月に設立しました。農業団地では、区画面積や経営を安定させるため通



施設全景



商工会編

有限会社
廣瀬建設

国東町東堅来

設立：昭和63年4月
従業員：15名

設立者で現会長の広瀬徳喜さんは、宇佐市の建設会社で経験を積み昭和63年4月に有限会社廣瀬重機を国東町東堅来に設立しました。設立当時は従業員3名で、油圧ショベル2台とブルドーザー1台の重機を使った土地の造成などの下請け工事を行っていました。当時、国東町内では圃場整備事業の最盛期だったこともあり、土地の造成工事の腕を買われて、多くの仕事を受注し、事業を拡大していきま。平成9年、国東町浜崎の建設会社を吸収合併する話が持ち上がりまし。検討した結果、建設会社を吸収合併して「廣瀬建設」に社名を変更しました。吸収合併した建設会社の従業員を雇用し、公共工事の入札資



前列左端が広瀬徳喜さん、右端が真さん

成19年5月には事業所内託児所を開設しました。このような取り組みが、職員の離職率を減らすことにつながりました。

平成21年は、安岐の郷にとつての転換期となりました。1月には、閉校した朝来小学校の跡地を利用し、地元の高い要望を受けた朝来サポートセンター鈴鳴荘を開設しました。そして、これまで培ってきたきめ細かなサービスをより多くの人に提供したいと、民間移譲先を公募していた特別養護老人ホームむさし苑と養護老人ホーム松寿園に応募。両施設の移管先に選ばれ、4月から開業を行いました。今では、4施設で286名の方達に利用していただいています。

安岐の郷は、これまで介護保険の利用者を対象とした事業を中心に行ってきました。しかし、朝来地区で人との交流が少なくなつたお年寄りや地元の若者たちを結びつけることができた100円居酒屋の事業のように、より地域福祉の拠点としての役割を果たせるような事業にも積極的に取り組んでいます。



レクリエーションの様子



施設内託児所



移動支援の様子



苗の植え替え作業



袋詰め作業



収穫作業

年出荷できる農作物を栽培することが重要です。そこで、リーフレタスを水耕栽培することにしました。水耕栽培用のハウスは、大分県農業農村振興公社のリース事業を活用して整備し、平成28年4月から植え付けを始めました。最初は、従業員3名とパート3名で行っていましたが、平成28年10月にもう一棟ハウスが完成し、作付面積が約770㎡となったことで従業員の人数を徐々に増やしていきまし。栽培に関しては順調でしたが、苦労したのが販路の開拓でした。食品に關しての販路を持っていなかったため、一からのスタートとなりましたが、県内の全スーパーなどへ営業し、今ではスーパーやホテルに1日約2000株を出荷するようになりまし。また、今月より関東方面にも大口の出荷先ができました。今後も継続して販路拡大に取り組むことが大切だと考えています。

日出電機エコファーム国東は、ハウス近くに設置している太陽光パネルによる自家発電が始まり、自然エネルギーを活用した工場を実現しようとしています。そして、国東市で農業の企業参入しようとした最大の目標である「地域に雇用を生むこと、地域に人を呼び込み、地域の再形成の役に立ちたい」との思いを実現していきたいと考えています。



格のC級も引き継いだので、元請の仕事も増えていきました。事業は順調に拡大し、平成15年には公共工事の入札資格でB級を取得しました。その後、平成17年に息子の真さんが、後を継ぐために会社に入りました。しかし、国東市全体の公共工事は徐々に減っている状況でした。そこで、事業の軸を公共工事から民間工事に切り替えることにしました。新聞広告を利用し、家屋解体や宅地造成、コンクリート舗装など個人の方からも仕事を請け負うことをアピールしました。そこから、少しずつ家屋解体等の依頼が来るようになり、仕事ぶりが口コミで広がっていき、今では仕事の半分を民間工事が占めるようになりました。

現社長の真さんは、「これからの建設業、特に公共工事で見通しを立てることはなかなか厳しい状況です。しかし、民間工事は、お客様が喜んでくれる仕事を続けて行けば、仕事は無くなると信じています。だから、自分達が現在依頼されている仕事について、自分達が今できる最高の仕事をしていきたい」と語っていました。

